

## 1988年のパキスタンについて

政治的には、パキスタンは何年もの間、ジェットコースターのように変化しつづけたの。でも、ちょうど父が大学に行きはじめた1988年は、特にわくわくするような状況になったわ……

パキスタンはインドの一部として、90年以上も英国に支配されていた。

1947年、ついに独立を手にしたが、ヒンドゥー教徒が主であるインドとイスラーム教徒が主であるパキスタンのふたつの国にわかれた。1300万人が移動しなくてはならなくなり、100万人がはげしい暴動で死んだ。

「新しい国パキスタンは、われわれが選挙で選んだ政治家が代表となる民主国家になるのだ」「ばんざい！」みんな新しい国に期待していた。

ところが、すぐに軍が支配権をにぎり、そのような選挙は23年間も行われなかった！

1970年12月に総選挙が実施されたあとでさえも、軍は支配権を手放しなかったが、1971年に内戦（第三次印パ戦争\*）が起こり、数十万の人が死んだ。内戦によって、新しい国バングラデシュが生まれた。

その2年後の1973年、パキスタン人民党のズルフィカール・アリー・ブットーが、ついにパキスタンで正しく選ばれた最初のリーダーとなった。



しかし、軍は息をひそめていただけで、1977年にはブットーを追いだし、ズィヤー将軍をその地位につけた。

おそろしいことに、世界中の重要人物が抗議したにもかかわらず、ブットーは1979年に軍によって処刑されたの。



\*第三次印パ戦争……バングラデシュ独立戦争。インドが介入し、1971年12月16日に東パキスタンがバングラデシュとして独立した。

## ラ ジオ・ムッラー

地震の数か月後、マララが9歳のとき、(違法の)新しいラジオ局が放送を開始した。28歳のモウラーナー・ファズルッラーが司会をつとめ、1日に2回放送された。ファズルッラーは、毎日の祈りの大切さやかたり、クルアーンの節の解釈をした。夜の放送は、トールペカイのような主婦たちに特に人気があった。トールペカイはファズルッラーのことを、かしこくてカリスマ性がありそうだと思った。女性たちに直接話しかけたいからと、ファズルッラーが男性のリスナーに部屋を出るようにいうのを女性たちは気に入っていた。さらにファズルッラーは、彼のいう新しいシャリーアでは、女性たちに特別の権利をあたえると約束していた。

だが、ファズルッラーが女性たちから気に入られようとしたのには、ずるがしこい理由があった。パキスタンでは、ほとんどの女性が教育を受けておらず、文字の読み書きができないので、新聞を読むことができなかった。だから、多くの女性にとって、ラジオ・ムッラーだけが外の世界とつながる窓だった。ファズルッラーはそのことを知っていた。



そこで、女性たちの信頼をえたと確信すると、数か月のうちに態度を変えた。同時に、メッセージも変わってきた。急に、何を着なければならない、何をすべきで、何をしてはいけないというようになった。最も気になることは、ファズルッラーの考えが、どうもタリバンの考えに近いようだということだ。



マララが、地震は神の罰などではないと何度も何度も説明したが、トールペカイと友人たちはおびえた。ファズルッラーの言葉はとても説得力があるので、教養のある人たちの間にもファンがいた。ホシュハール・スクールの先生たちの中にさえ、ファズルッラーを支持するものがいた。ジアウディンはぞっとした。みんながファズルッラーの何を見て、よいと思うのか理解できなかった。ファズルッラーは自分をすぐれた学者だといいはったが、本当は、高校さえ終えていなかった。

こまったことに、パキスタンの政治制度はどうかして変える必要があり、ファズルッラーはリスナーの多くに、自分こそが問題を解決できるものだと思込こませるのに成功していた。

学校の校庭では、ラジオ・ムッラーの、火のようにはげしい放送のことがよく話題になった。マララはそれがすごくいやだった。

### ファズルッラー

◎ファズルッラーはTNSMの指導者の娘と結婚した。そして、妻の父親が刑務所に入れられた2002年に、そのあとを受けついだ。妻の父親の書いた本を読んで、イスラーム学者と名のることにした。